

2014 W 杯第 2 戦オーストラリア ケアンズ大会 レースレポート

BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM 齊藤 亮

+++++

大会名：2014 UCI MOUNTAIN BIKE WORLD CUP #2 in CAIRNS

期日：2014 年 4 月 27 日（日）

会場：オーストラリア / ケアンズ

天気/気温：曇晴 / 28℃

競技種目：男子エリート / スタートループ 1 周+6 周回（5.13km）

参加数：51 名

結果：44 位

Web：<http://mtb.subaru.com.au/uci-world-cup/>

+++++

今シーズン初参戦となるワールドカップ第 2 戦オーストラリア・ケアンズ大会。世界一を決めるに相応しい完璧な舞台であり、世界各国の名立たるライダーが集結する正にガチンコ勝負の戦い。期待と不安を抱きながらレース 6 日前に現地入り。日本との時差は 1 時間のため、体調管理や時差ボケの影響もない。W 杯だからといって舞い上がったり興奮してみても意味がない訳で、いつも通りのアプローチでレースまでの期間を消化していった。

高温多湿の蒸し暑さと連日降り続く雨の影響もありコースコンディションはどんどん荒れていく。ただでさえ厳しい W 杯の難コースにウェットコンディションとなればスキルの差は歴然と表れる。考えれば考える程に不安になり、ナーバスになりがちなので深く考えるのをやめた。自分なりのイメージと割り切りの気持ちに切り替える。レース当日は 6 時半に起床していつも通りに朝食。食休みをしてから約 1 時間のライドで体をほぐし感覚を研ぎ澄ます。その後は部屋でゆっくりと寛ぎ、入念に準備をしながら、レース 2 時間前に自走で会場入り。蒸し暑さと照り付ける日差しがととても暑い。スタートオイルを脚に塗り込みセルフマッサージ。チームメカニックのメンテナンスによりバイクの準備や調整もバッチリ。スタート位置はゼッケン順にコールされていき、52 番ゼッケンの自分は最後尾から 2 列目の位置。先頭から遅れ過ぎてしまうと次々と切られてしまうサバイバルレースが予想される。今回のコースはコース幅も狭く、シングルトラック率が非常に高い。スタートが肝心なのは百も承知。



だからこそ集中力を高め、スタートダッシュに全神経を集中させる。

Photo/Hiroyuki.NAKAGAWA

スタートの合図と共に良い反応でスタートダッシュに成功。しかしスタート後 300m 程のところで落車発生。ギリギリ回避することが出来た。スタートループを終えて本コースに入るシングルトラックでやはり渋滞発生・・・バイクを降りて流れを待つ。1 列棒状になる区間が多く、中切れを起こす選手もチラホラ。ストップ&ゴーを繰り返しながら、ひたすら追い込み前の選手に食らい付く。少しのミスやスペースがあれば前の選手をパス、逆にミスをすれば大きく順位を落とす・・・。やはり日本ではありえないような強引さと判断力や決断力が必要であり、遠慮なんかしていたらレースにならない。後先考えず積極的な走りを心掛けプッシュし続ける。先頭とのタイムギャップを確認しながら周回を重ね、必死にペースを維持。やはり W 杯の舞台では大きな順位変動はないが、少しずつペースダウンしてくる選手をパスしていくのが精一杯。先頭とのタイム差を考えるとファイナルラップに入れるかギリギリのライン・・・。何としてもファイナルラップに入ろうと追い込み続けるが思いの外ペースを上げられない・・・残念ながら残り 1 周を残して 80%ルールによりレースを降ろされてしまった。



Photo/Hiroyuki NAKAGAWA

十分に給水を取らなかった影響からゴール後は若干脱水症状ではあったが、現状での力は発揮できたと思っている。完走出来なかった悔しさと虚しさは残るが、これも次へのステップと捉えて前向きに進んでいこうと今は思える。

今遠征で初めて訪れたオーストラリアの地。ワールドカップという舞台を肌で感じ、文化の違いや楽しみ方の違いを改めて認識させられた。日本とは違った環境とコース設定。「楽しい」だけのトレーニングや遊びでは競技者としてどうかと思うが、楽しむくらいの心の余裕を持っていることは非常に大事なことに思えた遠征でもある。チームやサプライヤーが一丸となり、支え合い、たくさんの方々にサポートして頂けることで最大限の力を発揮することが出来る。だからこそ自分たちはもちろん日々努力、進化をしていかなければならない。楽しく充実した 6 日間はあるという間に過ぎ去った。すべてのサイクリストを楽しませるワールドカップの舞台は最高の盛り上がりを見せた。次戦のワールドカップの挑戦は 7 月のカナダ、アメリカの北米ラウンドになる。この経験をしっかりと活かし思い切ったリベンジをしたい。

チームスタッフを始め、サポートして頂いたサプライヤーの皆さま、応援して頂いている皆さま、いつも献身的なサポート本当にありがとうございます。いよいよ今週末はジャパンシリーズ (J1) の幕を明けとなります。更に上を目指し飛躍していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

【リザルト】

1. Julien ABSALON(FRA) / 1:38:22
2. Mathias FLÜCKIGER(SUI) / 1:38:38
3. Maxime MAROTTE(FRA) / 1:38:46
4. Daniel MCCONNELL(AUS) / 1:38:50
5. José Antonio HERMIDA RAMOS(ESP) / 1:38:54
6. Sergio MANTECON GUTIERREZ(ESP) / 1:39:24
44. SAITO RYO(JPN) / -1Lap

【使用機材】

バイク : ANCHOR / XR9

コンポーネンツ : SHIMANO / XTR
FC-M985

ホイール : SHIMANO / XT WH-M785

シューズ : SHIMANO / SH-XC90

ペダル : SHIMANO / PD-M980

ハンドル : SHIMANO PRO / XCR

ステム : SHIMANO PRO / XCR

シートポスト : SHIMANO PRO / XCR

フロントフォーク : SR SUNTOUR / AXON-WERX-RC-RL-RC AH CTS 27.5/100MM

タイヤ : BRIDGESTONE / EXTENZA XC (27.5×2.1)

サドル : fi'zi:k / TUNDRA

ヘルメット : KOOFU / WG-1

サングラス : adidas eye wear / evil eye halfrim pro / クリスタル S グラデーション

ケミカル : **HOLMENKOL**

時計 : SUUNTO / AMBIT2S

メーター : パワータップ G3 プロ MTB ハブ / ジュール GPS

ネックレス : SEV

ドリンク : SAVAS (株式会社明治)

サプリメント : SAVAS (株式会社明治)

レースウェア : WAVE ONE

レースグローブ : KABUTO / PRG-3

アンダーウェア : CRAFT

インソール : SUPER feet / Black

アパレルウェア : Columbia

ザック : deuter

テーピング : New-HALE

